

人に喜ばれる仕事を見つけました

高齢者にまごころをこめて弁当を届けています

まごころ弁当 高崎店

依田 崇行



営業マンからの転身

2013年3月7日に私は高齢者向け配食サービス「まごころ弁当 高崎店」を起ち上げました。起業のきっかけは「人に喜ばれる仕事をしたい」という想いと、以前から起業することを夢見ていたからです。私は、大学卒業後に入社した会社で営業マンとして働いていました。当初は、営業という仕事に抵抗もありましたが、もともと人と話すことは好きだったので、会社の上司や先輩、お客様とも打ち解けることができ、厳しく辛いことも多くありましたが、充実した日々でした。優秀営業マンとして表彰されたこともありました。しかし、時代の流れと言えばそれまでなのですが、販売方法も徐々に変化していきました。「自分が責任者であれば、こんなやり方はしない、こうする。その方がお客様のためになる。」と思ったことが何度もありました。そう思ううちに、以前から起業したいという想いが強くなり、気が付けば起業の準備をすすめていました。

物置小屋を改装して開店

昨年(2012年)の12月、「まごころ弁当」とフラ

ンチャイズ契約を締結しました。「まごころ弁当」を選んだ理由は、様々な説明会に参加した中で、最も「人に喜ばれる仕事」であると感じられたからです。また、特に起業のノウハウなど持ち合わせていなかったため、指導を受けながら勉強していけるフランチャイズが最適だとも思いました。契約から開店まではあっという間でした。物置小屋を改装し事務所や厨房をつくる、知り合いの社長に経営の心構えを教えていただき、開店準備を家族に協力していただきながら進めるなど、その他にも課題がたくさんありました。開店後は、本部の方の指導を受け、お弁当の作り方から営業まで学びました。

事業所回りで販路開拓

開店の日程を迎えても、宅配専門のため、通常の飲食店とは違いお客様が押し寄せてくることはありません。まずは、ご利用者様を紹介していただけるよう、ケアマネジャーのいる居宅介護支援事業所や訪問介護事業所などをまわり、挨拶と営業を行ないました。以前の営業とは異なり、大抵の事業所が飛び込みにもかかわらず、真剣に話

を聞いてくださいました。しかし、すぐにご利用者を紹介していただけるわけではありませんので、まずは試食をお勧めし、当店のお弁当を召し上がっていただきました。そこでいろいろな意見をいただきましたが、ほとんどの方に「美味しい」とおっしゃっていただきました。時には、施設に呼ばれ、多くのケアマネジャーやヘルパーの前にお弁当のプレゼンも行ないました。とにかく営業メインで毎日が過ぎましたが、幸いにも、近所のご高齢者様が噂を聞いて毎日の夕食を注文していただいたので、注文がないという日がありませんでした。



あなたが来てくれて助かる！

開店から1ヶ月も経つと徐々にご利用者を紹介していただけるようになりました。ご紹介をしていただけるのは営業の成果です。やはり嬉しいです。しかし、それ以上に嬉しかったのが、ご利用者様からいただく「ありがとう」という言葉でした。「まごころ弁当」をご利用している方の大半は食事の準備が困難な方ばかりです。「あなたが来てくれて助かる」「いつも美味しいよ」といった感謝の言葉をいただくことが何よりの励みになっています。

安否確認も大切な仕事

また、配達の際には安否確認を行ないません。基本的にご利用者様、またはご家族の方に直接お渡しするようにしていますが、独居の方もいれば、出かけられて留守の場合もあります。応答がない場合は、中で倒れている可能性もゼロではありません。事前に不在時の対応を打合せしてありますが、必ず確認の連絡を入れています。ご利用者様の中には、留守にしがちの方もいました。

そのたび、家族の方やご紹介いただいたケアマネジャーに不在で連絡もとれない旨を伝えていましたが、毎回杞憂でした。しかし、安否確認の連絡を欠かさず入れたことにより、家族の方とケアマネジャーの信頼を得ることができ、重要性を再確認することができました。「私は人の命を預かっている」と大袈裟ではなく思っています。

母、叔母に感謝

現在は、開店から半年以上が経過し食数も増えました。開店当初から手伝いをしてきている母と叔母に大変感謝しています。なんとかアルバイトも雇うことができましたが、まだまだ食数を増やさなければ目標に届きません。全国にある「まごころ弁当」の店舗数は340店舗を超えました。一カ月ごとに食数がランキング形式で出てきますが、直近の目標としては100位以内を目指しています。

超高齢者社会に向かって

日本の高齢者人口の割合は増加の一途を辿っており、2015年には4人に1人が高齢者である「超高齢者社会」に突入されると言われております。今後は高齢者の独り暮らし、高齢者夫婦が暮らす世帯が増え、介護従事者の絶対数が不足し、介護サービスのニーズの多様化が予測できます。高齢者に必要な栄養素、バランスの良い食事、安否確認も任せただけのように、多くの人に「まごころ弁当」を知っていただき、これからも感謝の気持ちを忘れずに邁進したいと思っています。

